



S-GAP応援通信

令和元年11月 15日発行

第5号

発行：川越農林振興センター

農業は工業と比べると、反復作業が少なくてやることが多く、また季節によって忙しさが異なること、仕事が天候に左右されてることなどの特徴があります。そのため、さまざまな事に気をを使う必要があります。今回のS-GAP応援通信では、みなさんに起こりうる「危険を」、ほんのわずかですが事例で示しました。
みなさんの農作業でどんな危険があるか今一度考えてみましょう！

事例1 パートの作業者に危険な作業をさせてけがをさせてしまった。

忙しい時には、ついパートさんにも難しい作業を頼みたくなくなってしまいます。また、自分では簡単だと思った作業でも、パートさんにとっては初めてのことも多く、無理してけがをしてしまうことも…。
労災保険に入っていない場合は、完治するまで雇用主負担になってしまう場合もあります。

ネギの葉を切ろうとして、出血(右図)。



危険作業は、パートさんにはさせないと決める。もしくは十分な指導の上でもらいましょう。

事例2 トラクタが横転し、大けがをしてしまった。

トラクタの運転での事故は死亡事故につながる人が多いです。

特に、昔の農地整備による農道は狭く、作業が困難な場合があります。

また、除草作業をしていないと、農道の崩れなどがわからないことがあります。農道の点検・補修をすくなくとも年に一度は実施しましょう(右図)。



トラクタ運転 チェックポイント(3つ)

- ①安全フレームを付け、シートベルトをしましょう！
- ②路肩など作業環境を整備しましょう！
- ③作業が終わったら圃場を出る前にブレーキを連結！

事例3 脚立から落ちて大けがをしました。

脚立から落ちた場合、頭から落ちて大けがになることが多いです(右写真)。
1mが「一命奪う」ともいいます。
土木の現場では、必ずヘルメットを装着しています。
天板には絶対に乗らないでください。
また、このようなことをしている人を見かけたら注意してください。



事例4 コンバインのアワメータ確認後、ステップから降りる際に、足を滑らせた。ステップ左角に左ふくらはぎを打ち付け、15針を縫う切り傷。

ステップの昇降は、両手で手掛かり等をつかみ、足下を確認しながら行う。滑りにくい履物を履くことも重要です。
また尖っているところなどは、カバーをするなど対策をしましょう！



尖ったところにグルーガンで樹脂を塗り、事故防止を図っている(写真はCO2発生機)。



安全のために、リスクについてみんなで話し合ってみましょう！

話し合いでは、自由に意見を出すこと。できるだけ全員が意見を言うこと。



ゲーム感覚で農作業安全について確認できます。農作業安全「リスクカルテ」WEB版 (社)日本農業機械化協会作成
<http://nitinoki.or.jp/risk>



あらためて農業は危険が伴うなと思った。危険な作業を確認するって大切だね。

みんなで、いろいろ意見を交わすことは、経営の向上につながると思うわ。

